

# せいらんそう

第46号  
2020.1



事業所トピックス 青嵐荘ケア・アシスタンスより (P4掲載)

## Contents

- P 2 外国の方との協働を成功させるために
- P 3 子どもの科学遊び  
ロータリークラブの活動から
- P 4 施設・事業所トピックス
- P 5 助成金をいただいて
- P 6 芳香会活動報告  
芳香会スケジュール  
編集後記



青嵐荘療護園より (P5掲載)

2019年10月台風第19号において被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、  
当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

# 外国の方との協働を成功させるために

外国の方との協働における芳香会の目的は「世界貢献」です。目標は「日本を好きになつてもらう」、合言葉は「お互いがお互いの国を好きになる」です。

海外の方が日本で成功するには、日本語習得が本当に重要な能力です。私は海外の方と接することで、日本語は本当に繊細で奥深い言語だと知りました。昔から読まれる日本の俳句や短歌は、短い文中にも人の心の動きや、微妙な違いも言葉で表現され、風景や状況を読み手が思い浮かべてしまう優れた美しい言語だと心から思います。海外の方には日本語はどのように映るのでしょうか。語彙も多く、発音や文法も複雑です。そんな日本語を学ぶ仲間に感心します。日本語の習得には計画や積重ねが必要で、芳香会での日本語、国家試験合格に向けた計画は、日本語教育のプロと協働し目標達成の為に丁寧に行うこととしています。

皆様にも理解して頂きたいことは、日本語教師に依頼すれば、日本語が上達するものではありません。日本語の上達は話すことも大切な要素です。上手く言えない、恥ずかしいとなれば、話す機会を失くします。間違えても話すことも大切だと、接する私たちも発語が出来るよう、お互いを理解し認め合う環境が必要です。

日本語授業での学びを仕事で生かし、仕事で分からない言葉を日本語授業の教材として、お互いの相乗効果を活用しながら、日本での成功が母国への貢献に繋がることの出来る法人を目指し実施しています。(富張)



EPAではその枠組みから、受入れ施設の管理下において国家資格の取得を目標とした適切な研修を実施することが責務とされており、日本語学習を含めた適切な研修の実施が重要視されます(厚生労働省)。

候補者は、入国前の日本語研修や獲得レベルにばらつきがあることから、受入れ施設に入職後は、一定水準の日本語能力の習得が求められています。

候補者の多くが専門用語の習得を前提とした日本語学習の切迫性を感じていますが、緊切な人材不足にある日本の介護領域において、候補者であっても即戦力として期待される現状が関与すると考えます。第二言語である日本語にて対人援助業務を担う候補者の負担は、計り知れないかもしれません。学習支援にあたっては、異なる文化的背景を持つ日本で、より良い介護ケアの提供のため、努力を続けている候補者を理解し、必要な支援のあり方を吟味することが求められていると考えます。(亀山先生)

## 日本語教師の先生方より



芳香会で支援させていただいて八年となりました。日本語支援にあたって意識している点は、「自分で課題解決をする力を身につけてもらうこと」です。授業内では一方的にこちらが教えるということとはしません。例えば、文法の授業であれば、

事前に宿題として文法の意味を理解し自分で例文を作成してもらいます。授業ではそれを全員でシェアし、間違っている部分はどうして間違っているのか全員で話し合いながら考えていきます。介護専門語彙や知識も、利用者さんの情報や制度を調べてきてもらい、それを全員でシェアし疑問点や自国とは異なる点を整理します。そして再度自分たちで調べることを繰り返し、知識や興味を深めてもらっています。

日本語教師の役割は、彼らの日本語能力に合わせた適切な課題を準備し、彼ら自身が成長する手助けをすることです。今後も彼らが意欲的に学習に取り組める環境づくりをしてまいりたいと思います。(田中先生)

# 子どもの科学遊び

11月21日、科学遊びで有名な坂口美佳子先生に来ていただき、たま保育園の年長児と牛ヶ谷保育園の年長児の合同で科学あそびを行ないました。

「虹って見たことある?」「虹って何色があった?」など、ひとつひとつの質問に子どもたちは興味津々で、「見たことある!」「プールの時に水のところで見えた!」と元気に答えていました。他にも、日本では虹色は7色だと言われているが、6色だと考える国もあることや、虹は7色であると決めたのは、ニュートンという海外の人であることなど、虹についてのいろいろな説明を分かりやすくしていただき、子どもたちも「へえー!」「すごい!」と真剣に聞いていました。

お話のあとは、三角プリズム(ガラス)を使って光を見ると虹色が見える体験やDVDや貝殻なども虹色に見えることを実際に目で見たり触れたりすることを通して学ぶことができました。他にも、赤・青・緑の3色のLEDを使って光を混ぜる実験や部屋を暗くして、虹スクリーンの前にロウソクを置くと丸い虹を見ることが出来る体験ができ、「黄色になった!」「うわあ〜!」と大興奮の子どもたちでした。

最後は、工作で分光器を作りました。トイレットペーパーの芯や画用紙を使って簡単に作る事ができ、子どもたちも楽しんで取り組むことができていました。穴の開け方や見る光によって虹色の見え方が変わるようで、お友だち同士で作ったものを交換して見せ合い、虹色の見え方の違いを楽しんでいました。

今回のような科学あそびを行なうのは、初めてのことでしたが、日頃から不思議に感じていた虹についてより深く知ることができる場となり、子どもたちにとって貴重な体験ができたのではと思います。今後も子どもたちには、色々なものに興味を持ち、実際にやってみる経験を通して、たくさんのことを学んでいってほしいと思いました。(河上)



## ロータリークラブの活動から



きっかけは、ロータリークラブで行う月刊テーマ【母子保健】という題名による講話(卓話)の依頼を受け、牛ヶ谷保育園の看護師2人が会員の皆さんを対象に2度ほど約30分間ずつ、お話をさせて頂いた事でした。話の概要は保育園での看護師の役割と日々の業務を説明し、地域の子どもの体の発達の状況や子どもと親子関係の重要な在り方と医療・保健の知識習得のための支援等幅広い内容の講話でした。卓話後に一人の会員から、保育園での看護師さんの仕事が具体的に理解ができ、保育士さんたちも

日々の業務で看護師さんたちが勤務している事で、安心して仕事ができるのだろうと労いの言葉をいただきました。

また、私たち会員が保育園に対して何か力になれることがないだろうか。この意見により実際に活動可能な事を皆で考え、12月期に15か所の保育園を訪問しました。訪問時には感染症の多い冬季に使用する衛生消耗品を複数種類をセットし、チームを組んで品物を届けました。今後も小さな関わり&小さな声から始まったつながりが継続する事を願っています。(宇留野理事長)



## 「療育セミナーの開催」

### 芳香会病院青嵐荘療育園

十二月十二日に埼玉純真短期大学を訪問し、子ども学科の学生さんを対象に療育セミナーを開催しました。一月には、希望する学生さんに、療育園に来園していただき、施設見学やご利用者と交流していただき、体験プログラムも用意してあります。

療育セミナーの目的は、福祉を学ぶ学生さんを対象に重症心身障害児者の存在と施設療育の現場を実体験していただくことにより、障害児者に携わる方々の育成です。子ども学科を卒業し、保育士資格を取得すると、その資格を活かし、卒業後療育園の保育士として働くことができます。

セミナーでは、まず看護師より重症心身障害の原因と特徴について講話し、児童指導員より療育園の概要と様子についてお話しさせていただきました。また、ご利用者の一日の生活の様子と保育士資格を所持している職員のアドバイスを動画で視聴してもらいました。学生さんの熱心にメモを取る姿や、動画を真剣に見る姿が印象的でした。終了後のアンケートでは、「重症心身障害児者について詳しく知ることができた。」「興味を持てた。」「ボランティアをしてみたい。」等の感想を頂きました。

このような学生さんの熱意を大切にし、体験プログラムに繋げていきたいと考えています。(結城)



## 「建物設備改修」

### 青嵐荘路のとう舎

青嵐荘路のとう舎では本誌四〇号でもお伝えしたご利用者の重度化・高齢化に向けた対策としてトイレの改修を行いました。十か月間使用して、ご利用者もスムーズにトイレの利用ができるようになりました。また、職員も介助、介護の面で支援がしやすくなったと好評です。利用者・職員両方にとって、生活に影響をもたらしました。



今年度は、館内廊下、壁紙やドアもきれいにしました。廊下は厚みのあるクッション材を使用し、万が一の転倒時にもケガの防止に努めます。また壁の一部に手摺りを付け、歩行時の補助や日中活動でリハビリ的な活動に使用できるなど用途は工夫次第です。きれいになった廊下やトイレを見るとまるで新館のようです。

そして現在、入浴設備の改修準備に取り組んでいます。施設内で委員会を立ち上げ、ご利用者の視点に立った空間作りや入浴機器の導入など、これからの重度化・高齢化に合った、入浴空間作りの話し合いを行っています。ご利用者が新しい浴室で入浴するにはまだまだ時間を要しますが、「新しいお風呂に入れて良かった」と感じてもらい、さらには「路のとう舎で過ごしてよかったです」と思っていただけのように、今後の支援や居場所づくりを行っていきたいです。(間中)

## 「近隣老人会との交流会」

### 青嵐荘ケア・アシスタンス

青嵐荘ケア・アシスタンスは、近隣の老人クラブの方をお招きし、「自分の健康寿命を知ってもらおう。老健施設を知ってもらおう。」という介護予防と地域貢献を目的としての交流会を行っています。令和初の試みは参加者二十四名をお迎えし、ケア・アシスタンスで開催しました。交流会は今年で十年目となり、長年通われている方は、過去行った体力測定の結果用紙を持参していただき、今回の結果との比較で一喜一憂している様子が伺え、楽しみに参加していただいていることを実感できました。今回は初めて脳年齢チェックとして後出しじゃんけんを取り入れました。「勝ってください。負けてください。」の掛け声に合わせて、参加された方も「ついつい勝ってしまう」等大いに盛り上がっていました。また、実際に施設のご利用者にご提供している食事を試食していただき、常食とソフト食等食形態の違いを体感していただきました。栄養士にて質問に答える等栄養指導も合わせて行いました。参加者からは「私もそのうち青嵐荘にお世話になることもあるかもしれない。でも、少しでも長く元気で行けるように交流会で習ったことを続けます。」等施設を知っていただくきっかけづくりや参加者の介護予防の意識付けとなり、更に近隣の方とのつながりが出来ていることも実感できました。(知久)



## 腰痛予防によるさらなる離職率低下を目指して

令和元年七月に職場定着支援助成金の目標達成助成金（五十二万八千三百三十七円）をいただきました。この助成金は、介護事業主が介護福祉機器を導入し、労働者の離職率の低下に取り組んだ場合に助成されるもので、人材の確保や定着、魅力ある職場の創出が目的とされており、青嵐荘療護園では平成二十九年年度に免荷式リフト（一台）及びエアーマット（六枚）の導入を経て、予め定められた離職率低下目標を達成した事により、助成金の交付となりました。

免荷式リフトは、立位補助機としての役割を持ち、ご利用者の移動や歩行訓練時の介護負担を軽減し、エアーマットは臥床時の体位交換に係る介護負担を軽減します。これらの機器導入により、生活支援員の腰痛予防効果が期待され、腰痛に伴う離職率の低下が見込まれます。実際に療護園の離職率は、機器導入前の一年間と導入期間終了後の一年間の比較で八・八%改善（低下）し、目標であった七%以上の離職率低下目標を達成しました。

また、通常では導入機器購入費の二十%が助成されますが、生産性要件（雇用保険被保険者一名あたりの付加価値が三年前と比較し、六%以上伸びていること）を満たしたため、助成率は三十五%へ増額されました。今後導入した機器を継続して活用し、業務負担の軽減と生産性の向上・腰痛予防と離職率の低下を図っていききたいと思います。（土堂）



## 「助成金をいただいて」

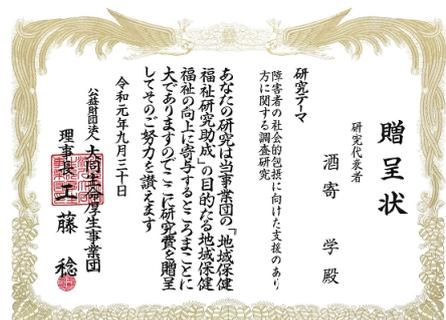
## 研究助成金をいただいて

芳香会では、平成二十三年四月に社会福祉研究所を設立し、間もなく九年が経とうとしております。また、社会福祉研究所設立に先立ち、平成二十二年十一月には、茨城県から地域生活定着促進事業の委託を受け、県内では数少ない司法福祉の実践も展開しております。

九年間の司法福祉の実践から、社会的に孤立しながら生活している障害者が少なからず存在し、そのことは矯正施設における障害を有する受刑者の存在に顕著に表れていることが認識できるようになりました。

そこで、社会福祉研究所設立から十年目を迎えるにあたり、障害者の社会的包摂に向けた支援のあり方について大規模な調査研究を行うために、公益財団法人大同生命厚生事業団が主催する「地域保健福祉研究助成」に応募し、研究費として三十万円の助成を受けることとなりました。

私は日頃、ソーシャルワーカーとして、すべての人が「幸せ」を享受できる社会の実現を目指し活動しております。合わせて、このたび助成を受けた調査研究を通じ、地域における障害者支援のあり方について明らかにし、その成果を社会に発信することにより社会に貢献できるよう、努力したいと思っております。（酒奇）



# 芳香会活動報告

## 「献血活動を実施しました」



芳香会では年に二回、地域貢献活動の一環として茨城県赤十字血液センターが行う献血活動に協力しております。献血活動は毎年五月と十一月に上大野地区、結城・尾崎地区で行っており、先日今年度第二回目の献血事業が無事に終了いたしました。



献血活動への協力は八年前より行っており、今回で通算十八回目、延べ八三三名の皆様にご協力をお願いしております。職員をはじめ、お取引様や地域の皆様のご協力をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

十一月十九日に結城・尾崎地区で行われた献血では献血車がぬかるみにはまり動けなくなるといいうハプニングが発生いたしました。献血にご協力いただいた外部事業所様の助けがあり、フォークリフト車を使い無事に抜け出すことが出来ました。改めて地域の方に支えられ事業が出来ているのだと実感いたしました。



次の実施は二〇二〇年五月を予定しております。今回献血していただいた方、残念ながら出来なかった方も次回、是非ご協力をお願いいたします。(吉金)



2019年度 献血実施報告 

	400ml	200ml
5月	31名	1名
11月	27名	—
総献血量：23,400ml		

## 芳香会スケジュール

- 二〇二〇年
- 一月 二十九日 茨城県EPA介護福祉士候補生 連絡協議会 総会・研修会
  - 二月 十九日 第二回 非常勤職員研修会
  - 二月 二十八日 法人内ヒアリング
  - 三月 七日 理事会
  - 三月 二十一日 評議員会
  - 三月 十八日～十九日 新任職員・適時採用職員 合同研修会
  - 三月 二十七日 入社式・四月一日付辞令交付式

## 編集後記

先日、JAT(Jyapan/Auction/Tank)の設立総会に参加して来ました。若者たちが自分の役割、自分たちが社会の為に実践報告でした。それら全てが、協働を基本として、仲間づくりと綿密な話し合いから成り立っています。特に高校生の発表には心打れました。(光)

今月号から会報誌作成委員会になりました。芳香会病院青嵐治療園で児童指導員をしております結城と申します。作成・編集するにあたって、読みやすく、分かりやすい会報を目指していきます。どうぞよろしく願います。(剛)

二〇二〇年、本年もよろしくお願い申し上げます。今年度は、東京オリンピック開催年でもあり、芳香会五〇周年を迎える年でもあります。本誌面だけでなく、様々な形で皆さまに情報をお届けできるよう努力してまいります。どうぞよろしく願います。(絢)



### 社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会  
 〒306-0201 茨城県古河市上大野698  
 TEL 0280-97-1027 (代) FAX 0280-97-1112  
 ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス [honbu@houkoukai.or.jp](mailto:honbu@houkoukai.or.jp)

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。

